

糸魚川市地域公共交通網の 再編に向けて

【地区意見交換会 説明資料】

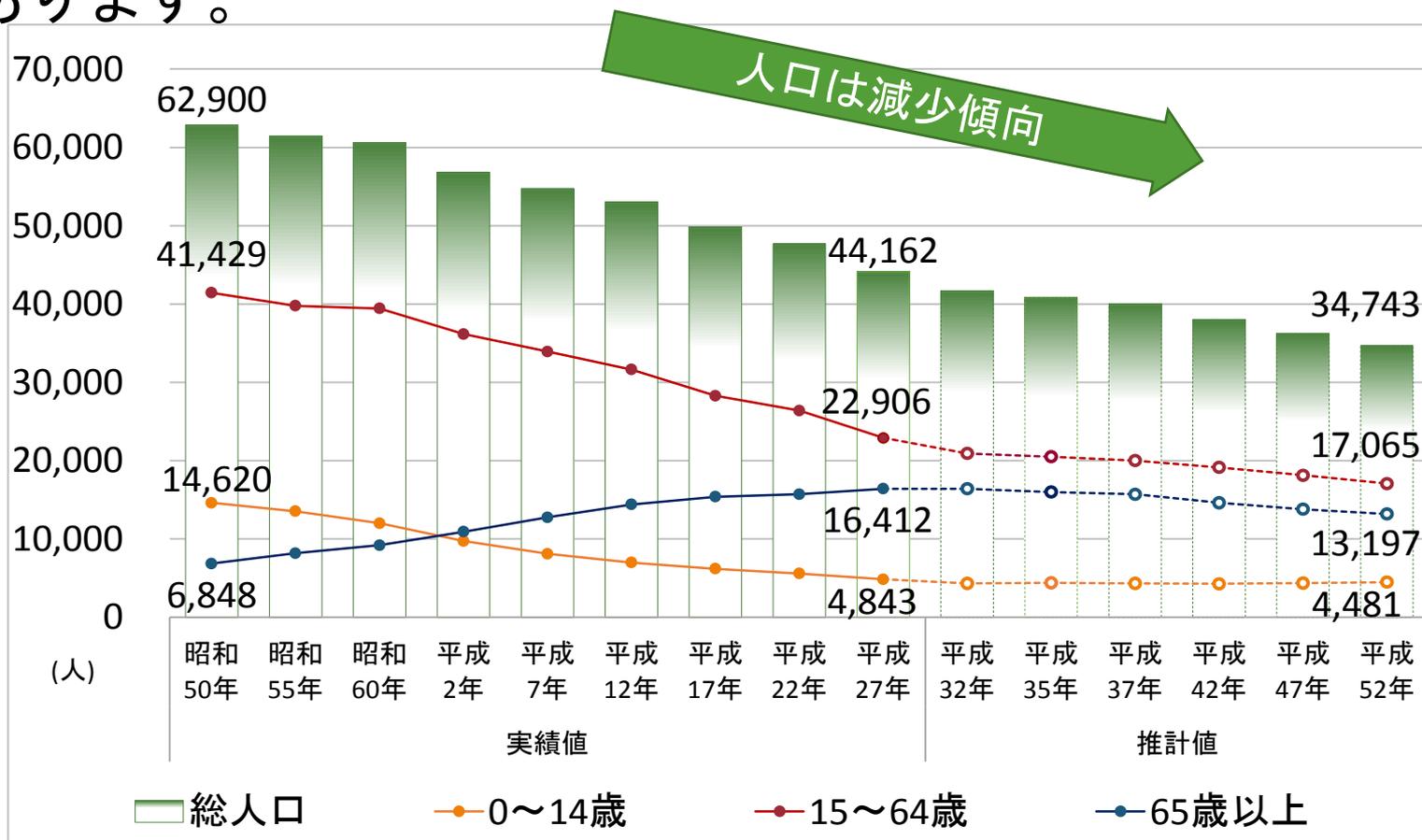
意見や知恵を出し合うために
知っておいていただきたい
現状と課題、市の考え方など

平成29年6月

糸魚川市 産業部 建設課

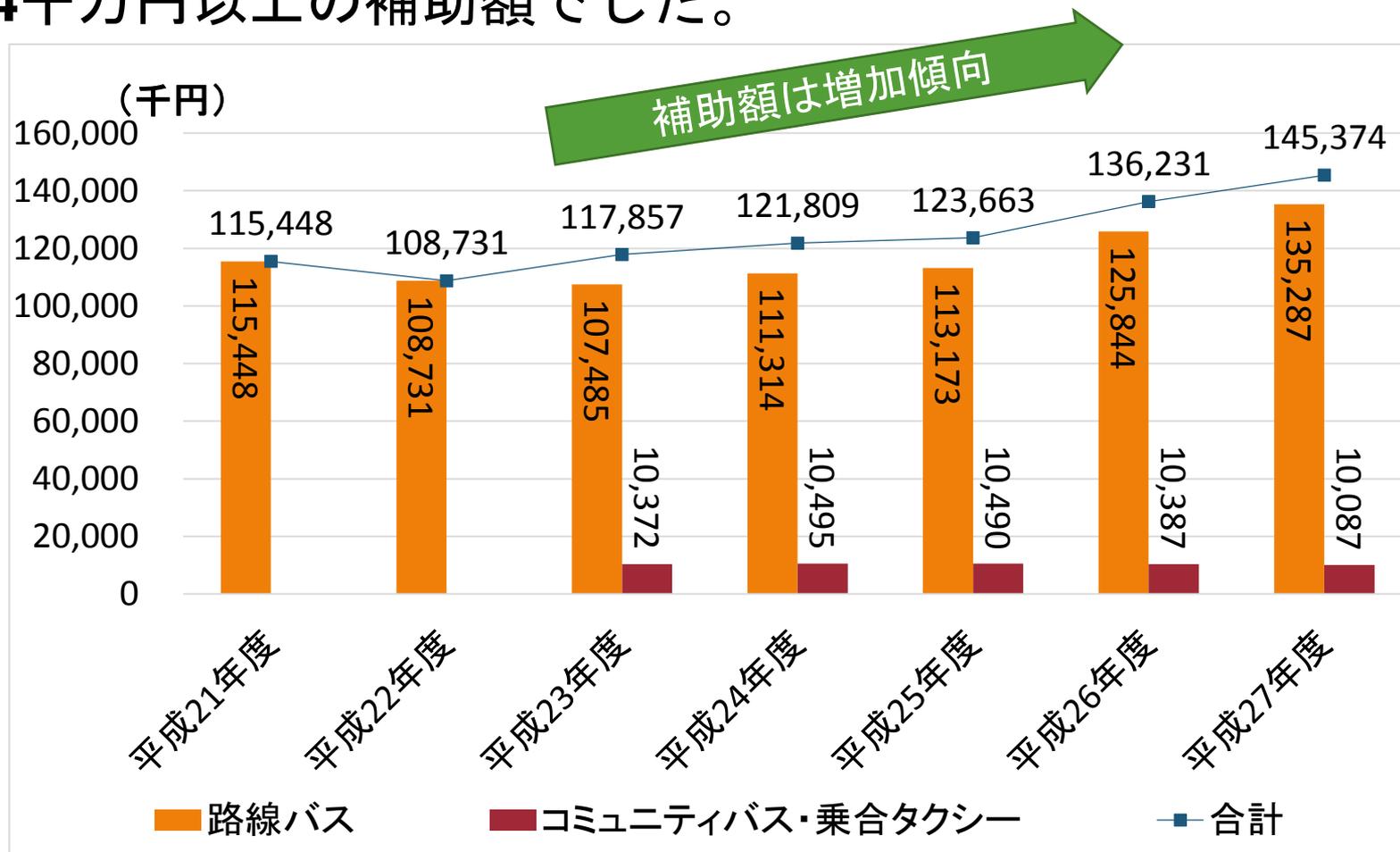
人口減少、少子高齢化等による公共交通利用者の減少

- 公共交通利用者数は減少の一途ですが、子どもや高齢者といった人々にとって公共交通は欠かせないものです。市民生活を支える地域公共交通を将来にわたって確保維持する必要があります。



公共交通の確保にかかる補助金額の増加

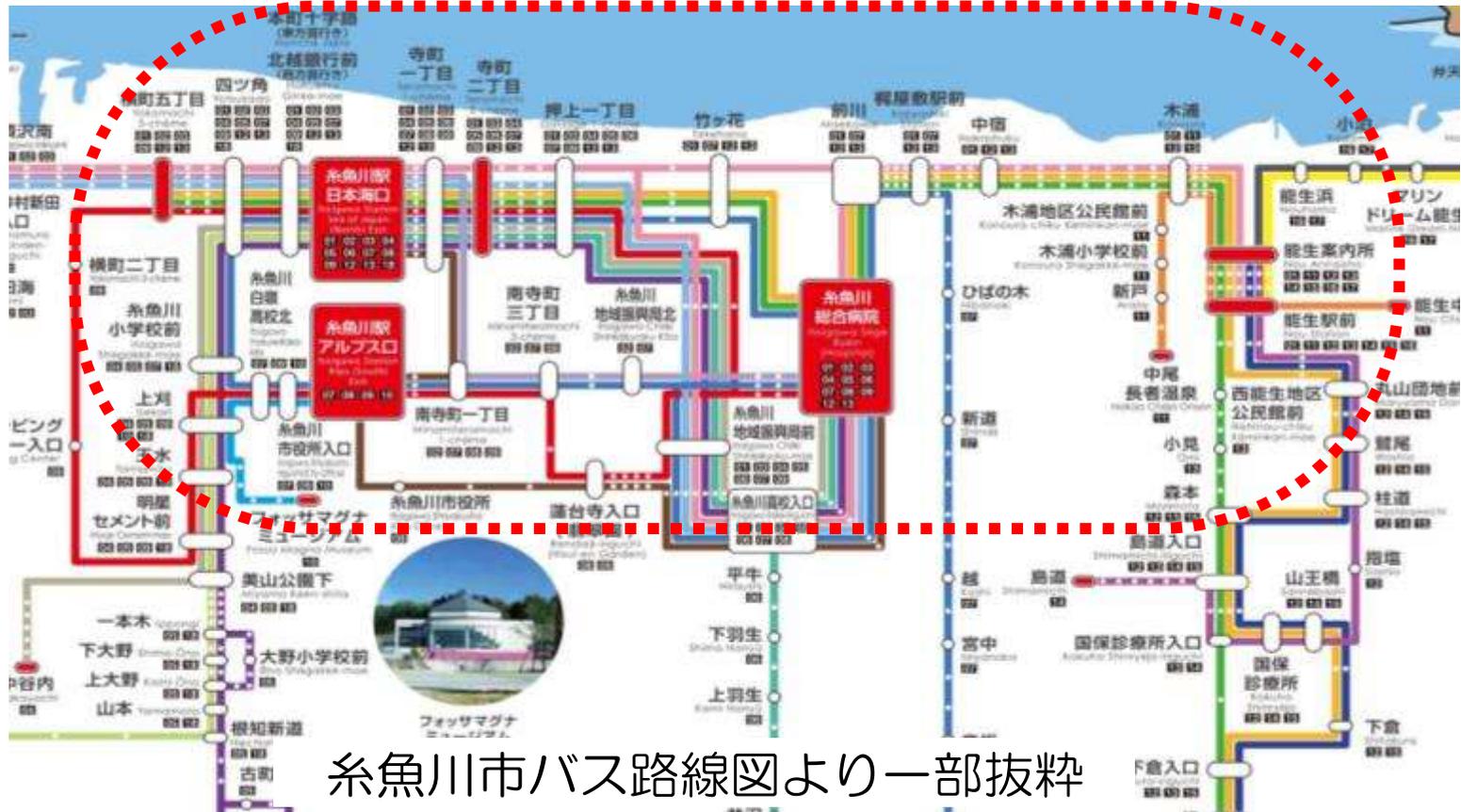
- 公共交通の確保にかかる補助金は年々増加しており、平成27年度は路線バスとコミュニティバス・乗合タクシーを合わせ1億4千万円以上の補助額でした。



鉄道、路線バス等、公共交通の競合が発生

- 起伏に富み、限られた平地や谷あいには主要道路や鉄道が走っているため、鉄道とバス路線、路線バス同士等が競合しています。適切な役割分担と路線の集約等で、運行の効率化を図る必要があります。

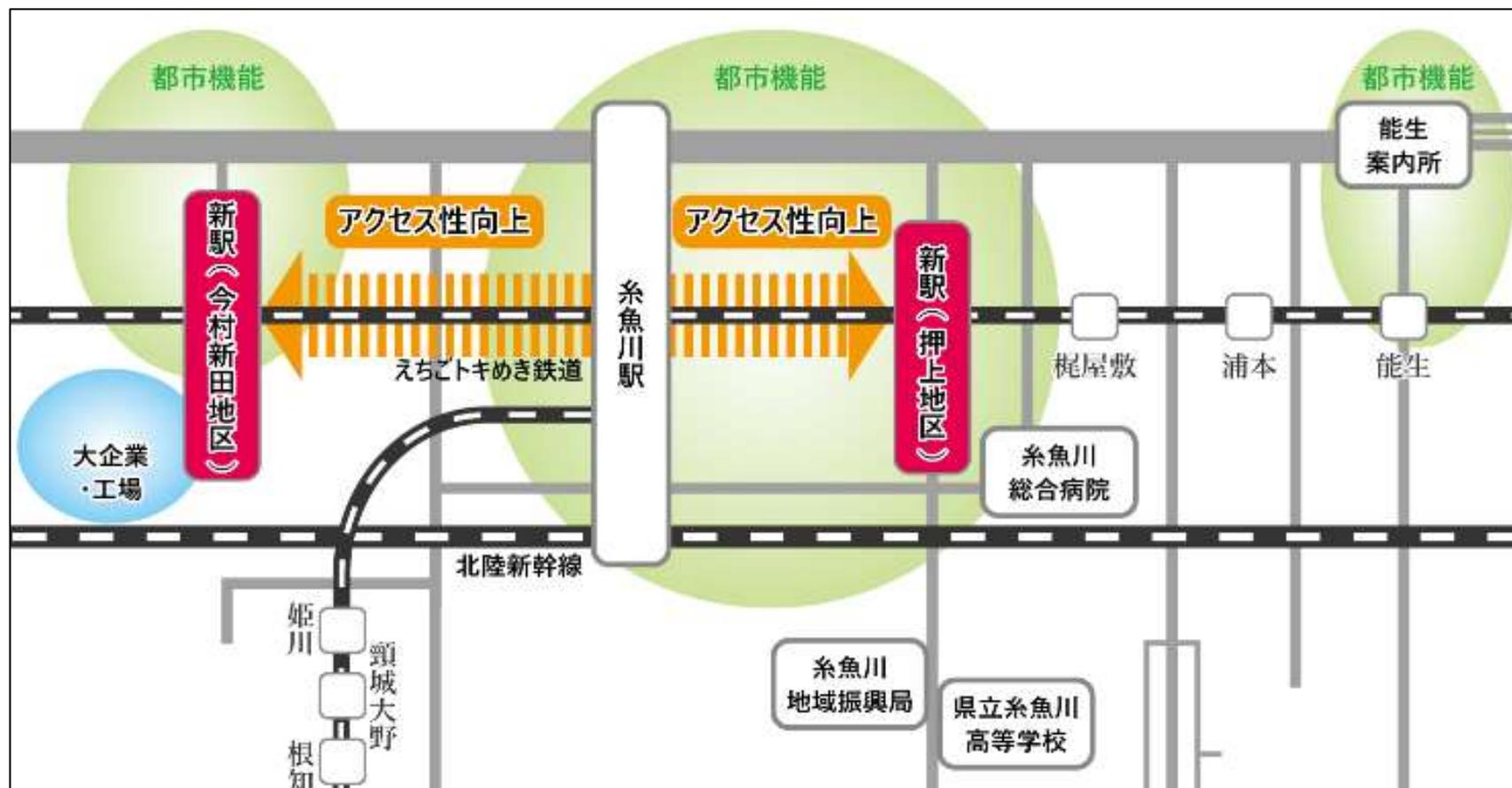
路線の競合（⇒お客様の取り合い）が発生



糸魚川市バス路線図より一部抜粋

えちごトキめき鉄道での新駅2駅設置計画

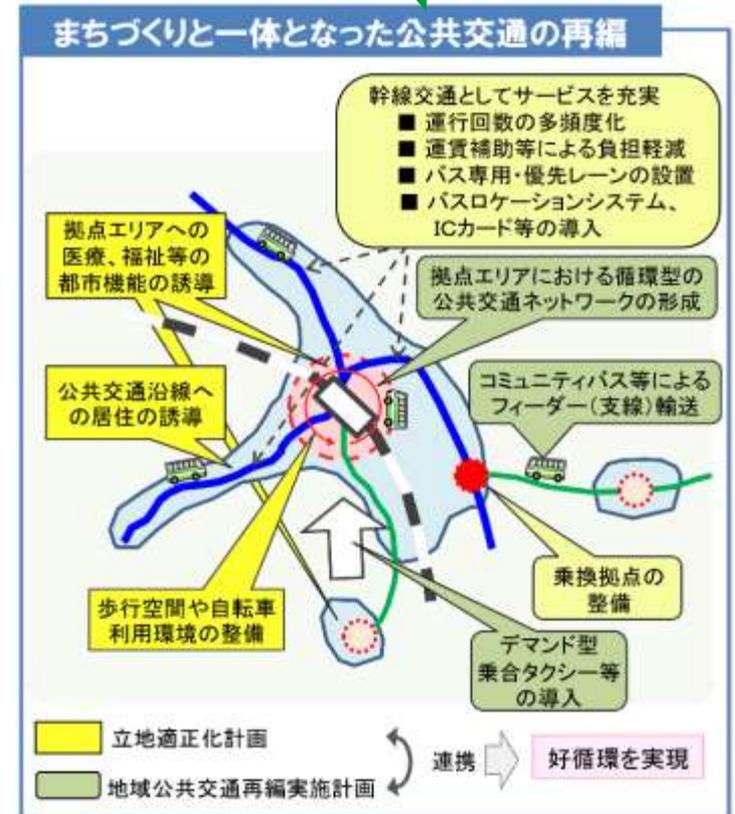
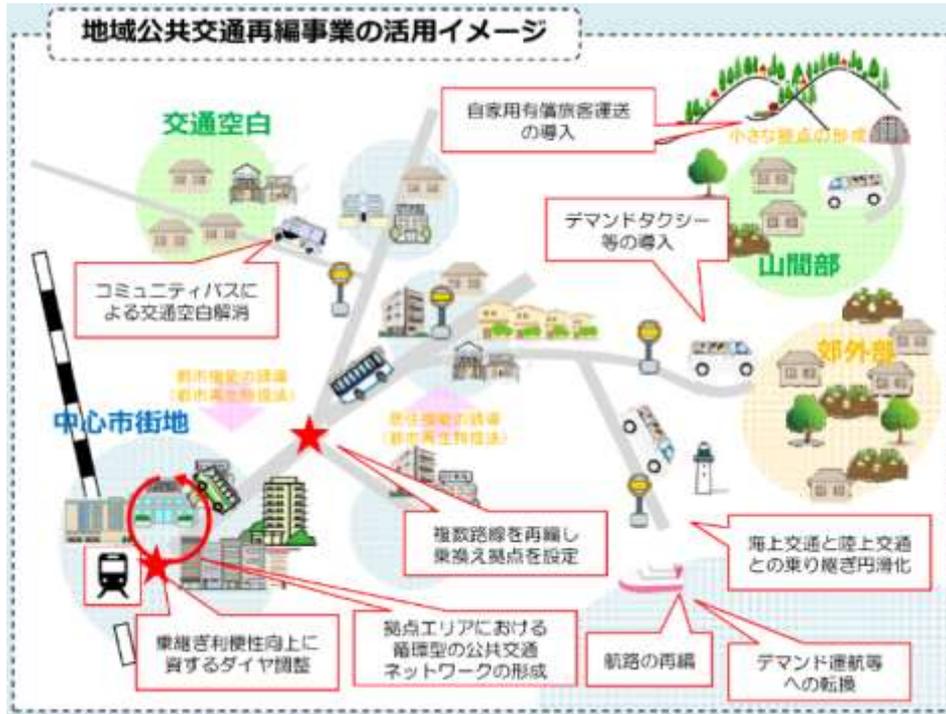
- 糸魚川駅の東西に新駅2駅（押上地区と今村新田地区）の設置を計画しており、早期の開業を目指しています。



地域公共交通網形成計画の策定

- 人口減少、少子高齢化が進展する中、地域社会の活力を維持・向上させるために地域公共交通が果たす役割は大きい
- まちづくりと一体となり、持続可能で、地域にとって望ましい、地域公共交通網を形づくる計画を、「地域公共交通網形成計画」という
- 糸魚川市では、平成**28**年度に計画を策定した

地域公共交通に関する
マスタープラン



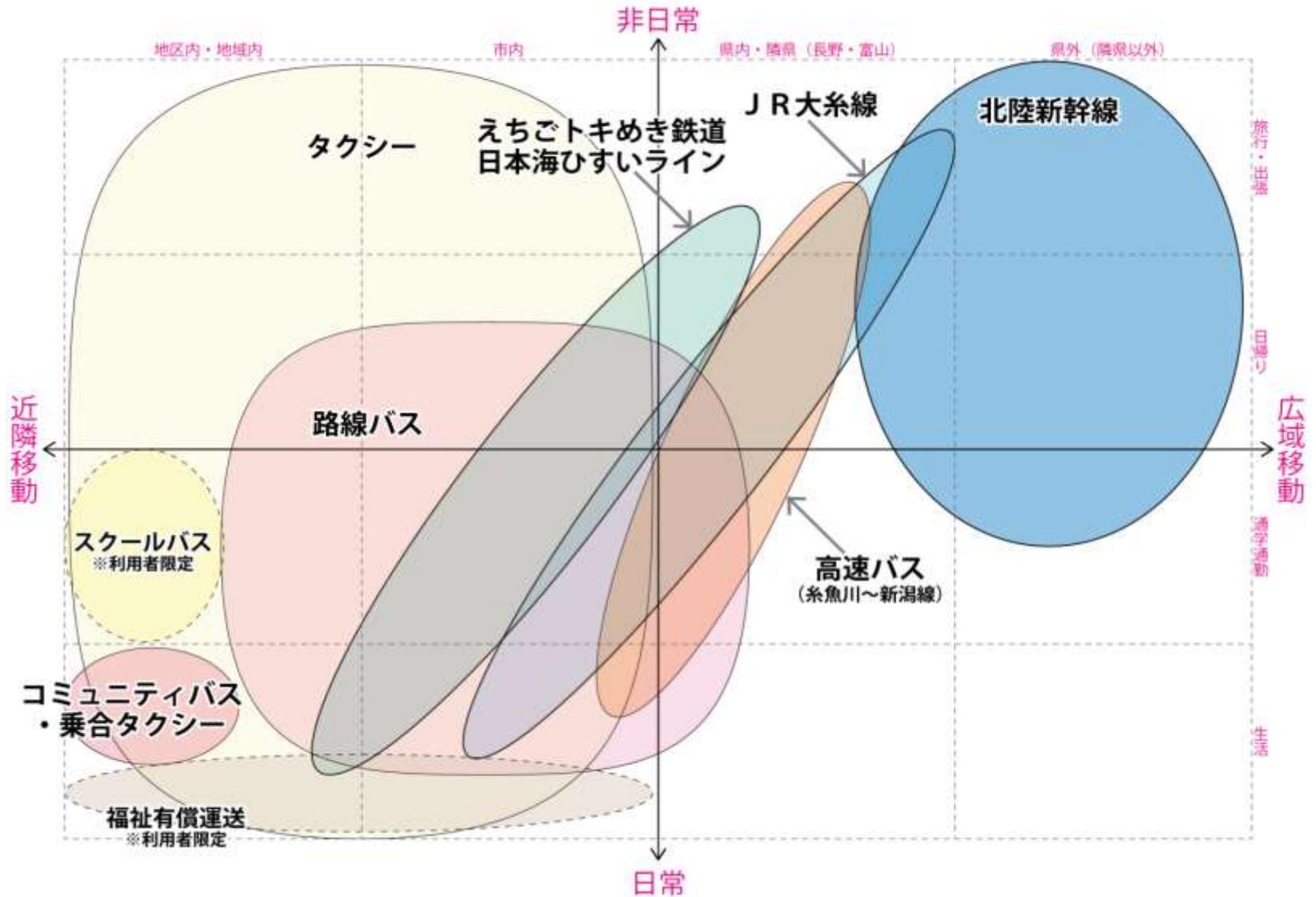
市民、交通事業者、市が協働し、
地域の実情に即した持続可能な地域公共交通



網形成計画の実施方針

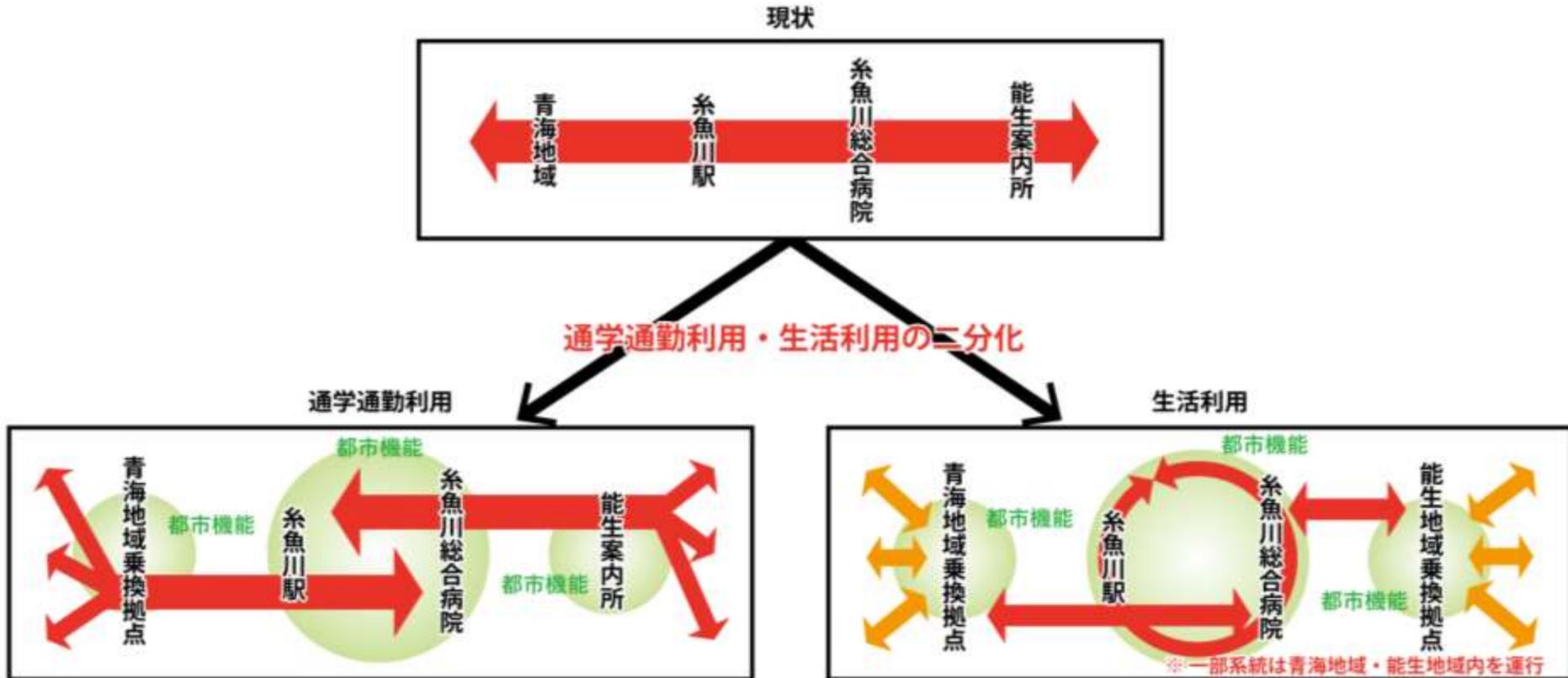
- ① 交流人口の拡大や地域活性化に役立つ
「まちづくりと連携した地域公共交通網」
- ② 鉄道とバスネットワークの
「適切な役割分担による効率的な地域公共交通網」
- ③ 大系線と沿線の魅力をつなぎ、
「海と山の交流を盛り上げる地域公共交通網」
- ④ えちごトキめき鉄道の新駅整備により、
「新たな需要を掘り起こす地域公共交通網」
- ⑤ バスネットワークの再編により、
「持続可能性の高い地域公共交通網」
- ⑥ 豊富な観光資源の活用により、
「観光客等来訪者の需要を喚起する地域公共交通網」
- ⑦ 長岡・新潟方面等へのアクセス利便性を高め、
「高次都市機能を楽しむやすい地域公共交通網」
- ⑧ 安全・安心・快適に利用でき、市民、交通事業者、市が
「主体的に利用促進し育む地域公共交通網」

市内公共交通の役割

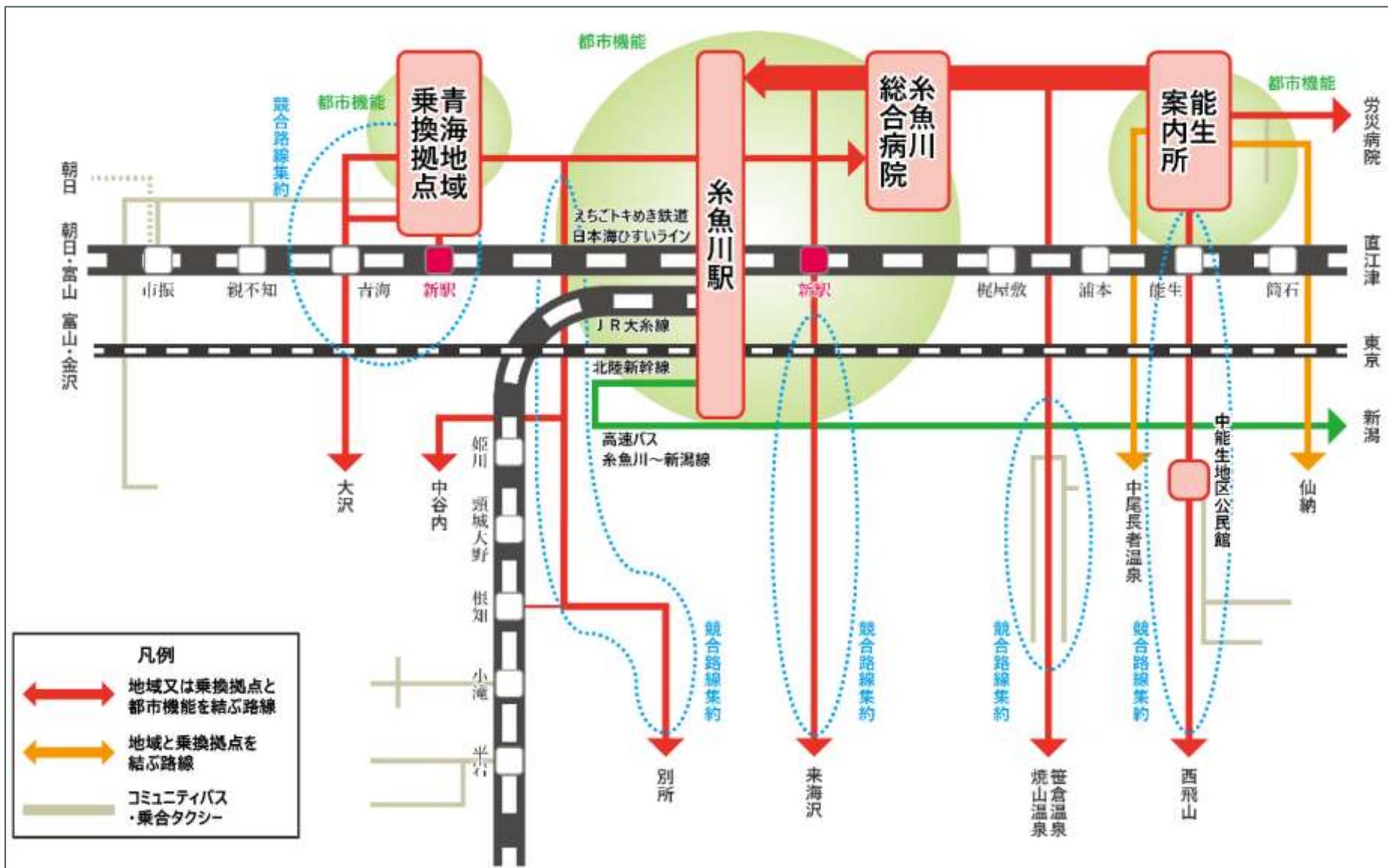


バス路線再編の基本的な考え方

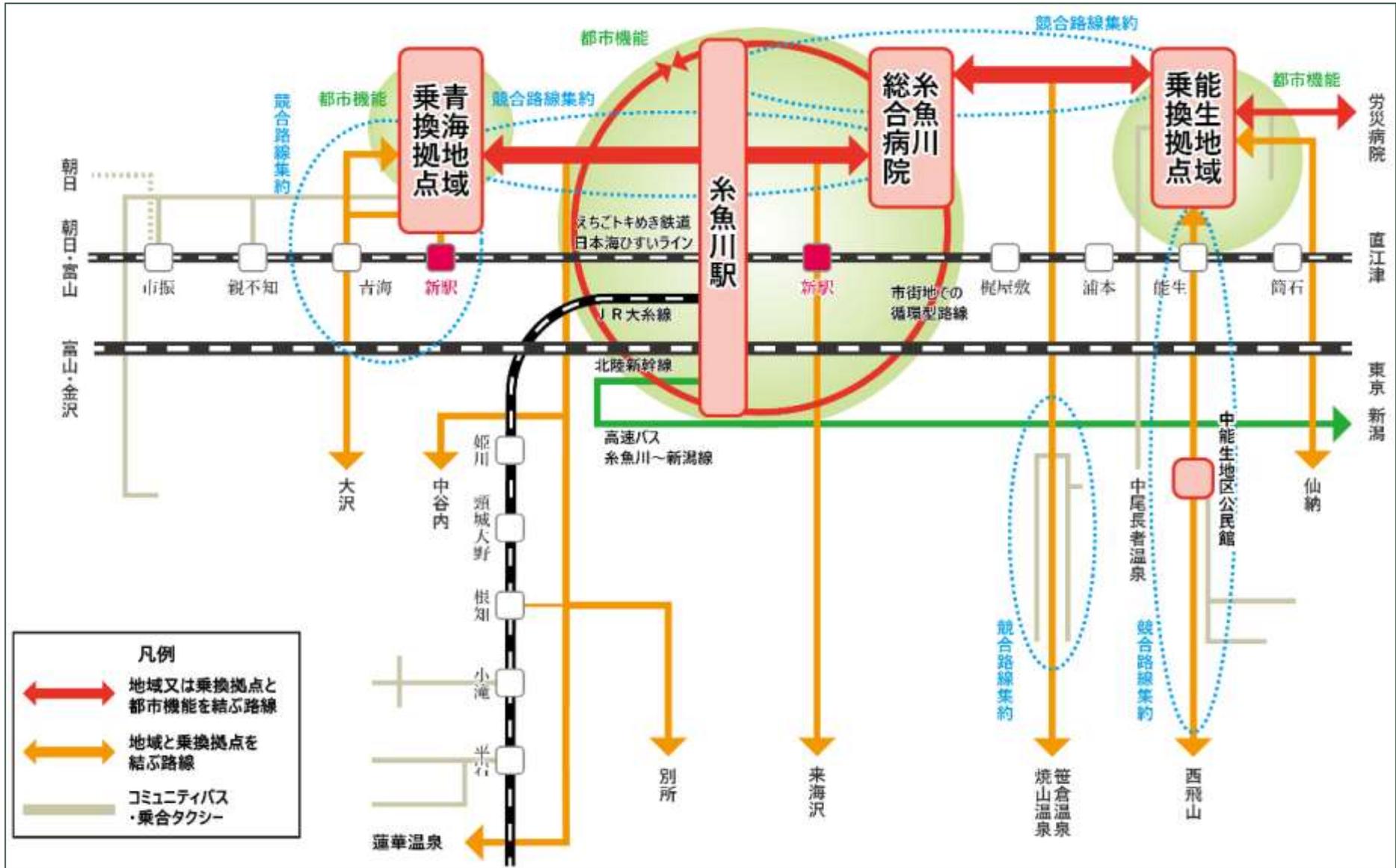
- 主な利用目的に合わせ、**通学通勤利用**と**生活利用**の二分化を図ります



通学通勤利用での地域公共交通将来構想イメージ



生活利用での地域公共交通将来構想イメージ



これまでと全く同じ公共交通の維持は困難

地域公共交通を今後も確保していくために、今とやり方を変えていきます。
そのために、皆さんと一緒に考えたいこと・・・

毎日使いますか？
たまにでよいですか？

周囲に使っている人は
いますか？

どこに行きますか？
行きたい施設等は？

使わないのはなぜですか？
必要ですか？

何時頃に行きたいですか？
何時頃に帰りたいですか？

使わない路線は
無くなってもよいですか？

車から公共交通利用へ
転換できますか？

どんな公共交通なら
使いますか？

公共交通にはたくさんの選択肢があります

地域ニーズに応え、維持していける「やり方」に変えるための様々な選択肢①

※右側に当市の場合は…という前提で説明します。

路線バス

定時定路線を平日及び週末等に大型バス等で運行しているもの

コミュニティバス

路線バス等の運行のない地区で週1日運行している定員11人以上のもの

定時定路線乗合タクシー

路線バス等の運行のない地区で週1日運行している定員10人以下のもの

デマンド交通

デマンドとは「需要、要求」という意味で予約に応じて運行するもの
予約した便だけ走るバスのようなものからタクシーに近いものまで多種多様

自家用有償旅客運送

など

公共交通のないところ（もしくは公共交通を利用できない方）限定で、国から特別に有償運行の許可を受けた白ナンバーのもの
（例）ぐりーんバスケット

公共交通にはたくさんの選択肢があります

地域ニーズに応え、維持していける「やり方」に変えるための様々な選択肢②

運行頻度

- 「毎日」なのか、「週に何日」なのか、
- 1日のうちでも「何便」の運行なのか

目的地

- 「どのエリア」につなぐのか
- 具体的に「どの施設」に行きたいのか

経路

- 目的地は1つでも「通り道」は様々…
- どの道をどう通るのか

時間帯

- 本当に必要な時間帯はいつか
- 時間帯がせまいと利用者が集中し効率的

運賃

- 利便性、持続可能性、他路線との調整
- 乗継割引、わかりやすい運賃体系

乗換

予約

- 乗換拠点での「乗換」「乗合せ」が効率的
- 予約で空（カラ）運行なし
- 快適でついでにの用事が足せる乗換拠点

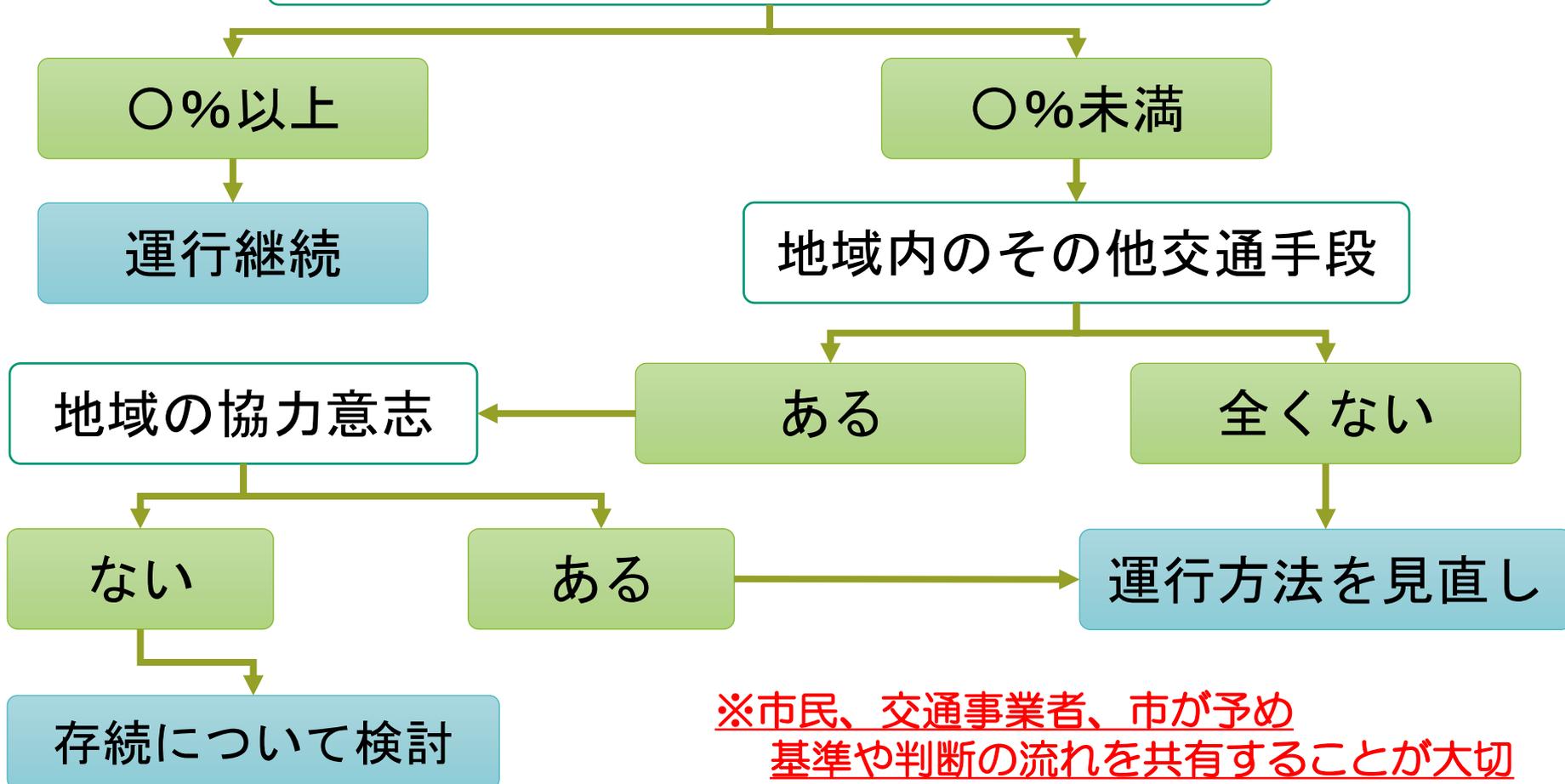
など

バス等の公共交通を維持していくための評価基準

公共交通として今のままでよいのか、見直しが必要なのか、判断するための基準（見直すきっかけ）が必要

（参考事例）

収支率（収入÷経費）、利用率など



※市民、交通事業者、市が予め
基準や判断の流れを共有することが大切

市内の公共交通 ■ ■ ■ それぞれの良さを生かした適切な役割分担を



北陸新幹線



JR大系線



えちごトキめき鉄道
日本海ひすいライン



路線バス



コミュニティバス



乗合タクシー
(ジャンボタクシー)



乗合タクシー
(セダン)



知恵と工夫で
新たな公共交通

皆 さんの地区で
本当に **必要** とされ、
みんな **乗り合い**、
維持し **続** けられる
公共交通 とは
どんなもの でしょうか。